

エコミュージアム日本村 植物と人々の博物館

日本村塾 募集要項

Nihonmura College for Environment, Plants and People Museum

学びたい人々と学びの本質を探り、互いに学び合いたいと考えています。2012年5月から試行してきました。2014年4月からの塾生を募集します。「先生」はいません。入学試験も卒業証書もありません。学費はなく、任意の寄附で自主運営します。学びの成果は縁側講座、炉辺講座、温泉講座、環境学習セミナーで公開します。

連絡問い合わせ先は下記です。

kimatami@u-gakugei.ac.jp 木俣美樹男（塾生 世話人・研究員）

このくにを良くする学びの提案：

エコミュージアム日本村は伝統文化を身につけた「日本人」になる暮らしの場であり、学びの場でもあります。森と水、生物多様性を守ってきた山村暮らしの多様な技能、生活文化を都市民に伝えることを、山村の新たな「百姓仕事」として、山村に仕事場を創りましょう。村民の意思が直接確認できる小さな自治体の試みが日本や世界に良い影響を与えます。山村民と都市民の有志がともに志を高く、大きくもち、このくにを良くするように学び、ゆっくりと語り合って、素のままの美しい暮らしを提案しましょう。

縁側・囲炉裏端 講座の趣旨：

世界中で気候変動が大きくなり、ピークオイルも越えました。日本では未曾有の大地震・津波の被害復興の努力を重ねていますが、一方で原子力発電所の放射性物質公害が進行しています。都市民は日本村での環境学習によって、持続可能な地域社会を都市に再生する契機（トランジション）を得ることができます。私たちが子孫のために地域社会を維持したいのなら、私たちは山村の伝統的知恵を学び、素のままの美しい暮らしにゆっくりと変えていきましょう。

植物と人々の博物館の基本概念：

- 1) エコミュージアム日本村のコア博物館として、世界の植物と人々の関わりの自然文化誌を展示し、現代社会における山村の伝統的知識や生物文化多様性の大切さから、日本と世界における日本村（の1つ小菅村）の重要な位置づけを示します。
- 2) 公民館活動としての展示を、小中学生、地域住民、訪問者、観光客ほか多くの人々

の環境理解に役立つものにし、案内・解説を行います。

3) 科学から環境学へと、分析と統合の学びの内容や方法の調和を伝統的生活文化の体験学習によって発見します。

4) 山川における野外活動、栽培見本園における野外実習などの直接体験によって五感から直観（第六感）に向かう環境学習過程を実践します。